香川大学大学院
教育学研究科案内
2019

香川大学大学院教育学研究科は平成4年の設置から20年以上が経過し、平成28年度から地域や時代のニーズに応えるために全面的にリニューアルしました。具体的には、第1に、高度専門職業人としての教員養成に特化した高度教職実践専攻（教職大学院）を設置しました。第2に、教科教育専攻は各教科を単位として設けられた10専修から4コースに大括り化し、教科間の繋がりを重視した学びを促進します。第3に、学校教育専攻に教育支援コースと発達支援コースを設け、教育の臨床的側面を強化するとともに、新しく特別支援教育分野と日本語教育分野を設置しました。第4に、学校臨床心理専攻を、臨床心理士養成に特化しました。

私たちは、この大学院改革が、皆さま方の多様な学びのニーズに応えられるものと確信しています。現職の先生方、教育学部で学んでいる学生の皆さま、他大学や他学部に在籍している学生の皆さま、学び直しを考えている社会人の皆さま、そして、留学生の方々も、新しくなった大学院を是非活用して下さい。皆さま方の入学をお待ちしています。

教育学研究科組織

専攻（定員）	コース・分野	学　位
高度教職実践専攻 （教職大学院） （14人）	• 学校力開発コース • 授業力開発コース • 特別支援教育コーディネーターコース	教職修士 （専門職）
学校教育専攻 （12人）	• 教育支援コース……教育学分野、心理学分野 日本語教育分野 • 発達支援コース……幼児教育分野 特別支援教育分野	修　士 （教育学）
教科教育専攻 （18人）	• 言語系教育コース……国語分野、英語分野 • 社会・生活系教育コース……社会科分野、家政分野 • 理数・情報系教育コース……数学分野、理科分野、技術分野 • 芸術・スポーツ系教育コース…音楽分野、美術分野 保健体育分野	
学校臨床心理専攻 （7人）		

高度教職実践専攻（教職大学院）

Course for Teaching Professionals (Professional Graduate School for Teacher Education)

教職大学院の特色

高度専門職業人としての教員養成に特化した専攻です。学校力開発コース、授業力開発コース、特別支援教育コーディネーターコースの3コースから成ります。カリキュラムは、共通科目（20単位）、コース科目（16単位）に加え、課題解決に取り組む実習科目（10単位）の計46単位から構成されます。カリキュラムや制度の特色は次の通りです。

●カリキュラムの特色

子どもの発達と発達障害に関する理解を重視した発達支援の理念に基づき、通常の学級における特別支援教育と道徳教育を特色とした専攻共通科目を開講します。

●小学校教員免許取得コース

長期履修学生制度を活用して小学校教諭免許状を取得するコースです。大学院で学びながら、学部において開講している小学校教員免許状のための授業科目を履修することができます。教職大学院では、中学・高校などの教員免許状を有していることがコース選択の条件となります。

●短期履修学生制度

優れた教育実践や教育研究の実績のある教職経験5年以上の現職教員の方を対象とした本学独自の制度です。教育委員会からの推薦の他、厳正な審査を経て認定された方は、1年間の履修によって修了することができます。

●フォローアップ・プログラム

教員としての力量形成を大学院修了後もサポートするため、本学独自の取組として、教職大学院フォローアップ・プログラムを設けます。実践成果に基づいたスクール・ミーティングや、教職大学院主催の研究交流会・フォーラムの開催等、学び続ける教員を支援します。

※教育職員免許状に定める免許状を有する（取得見込を含む。）ことが出願資格になります。

各コースの概要

学校力開発コース

現職教員対象

学校力とは、確かな授業力を基盤として形成される力であり、自律的学校経営を支えるために求められる、学級経営力、生徒指導力、学校経営力などから構成される総合力です。本コースではこうしたテーマに関わる内容を多角的に学ぶことで、学級経営・学年団経営や学校経営などを含めた現代に求められる学校力開発の中核的役割を担う教員を養成します。

授業力開発コース

現職教員・学部卒対象

教師がもっとも時間を割いて取り組む教育活動は「授業」です。社会の様々な変化に応じて、授業で扱う学習内容も、児童生徒の実態も大きな変化を見せています。本コースでは、今の時代に求められる「授業」の姿を追究しながら、確かな実践的指導力としての授業力を養成することをめざします。あわせて、道徳教育や授業力向上等の学校課題解決に向け、教育実践を構想し開発するための展望と力量をもつ教員を養成します。

特別支援教育コーディネーターコース

現職教員対象

特別な教育的支援を必要とする児童生徒は増加傾向にあり、これに対応することは、学校教育全体における課題となっています。本コースでは、本学教育学研究科が設置している特別支援教室「すばる」や附属特別支援学校における指導事例の検討や実習、発達障害に関わる医療・療育機関等における実習など、演習と実習に重点を置いたカリキュラムを構築し、小・中学校での特別支援教育を推進する中核となる教員を養成します。

学校教育専攻

School Education Course

学校教育専攻は、「教育支援コース」と「発達支援コース」の2コースから成っています。学校教育が対象とするのは誰もが経験したことのある具体的で身近な内容です。それだけに親しみやすい反面で、いざ取り組んでみると意外と奥行きが深いことに気づかされます。混迷する学校教育を理解し、子ども一人ひとりとのつながりを築き、子どもの成長を支援するために教育学や心理学を中心に学び、それを学校教育につなぐことによって教育実践力を育成します。

教育支援コース

教育支援コースは、「教育学」「心理学」「日本語教育」という三つのディシプリンを柱とし、それらが「教育支援」という共通性によってつながっています。ここで「教育支援」とは「臨床」の意味合いを持ち、学校を中心とする教育現場に分け入って当事者の声を共感的に受容すること、社会や学校、子どもの変化に即して生起する問題を多面的に分析すること、直面する教育課題に実践的に向き合い予防と解決を図るという、内容を含んでいます。

●教育学分野

教育は子どもの現在と将来、社会の現在と未来にかかわる営みです。家庭や地域社会や職場でも展開されますが、学校と教師は専門に担っています。現実の教育は複雑で多くの問題を抱えていますが、それを分析し、改善していくためには、学際的な知識が必要です。教育学分野では、哲学、歴史学、社会学、人間学などの知識を総合して教育の実践的な課題に接近し、学校の生きた現実や教師たちの実践と関わりながら学びます。

●心理学分野

個人、学級、学校、地域という各水準から捉えた子どもの発達、学習、適応などに関する心理学の実証的知見をもとに、教育と発達を心理学の視点から再分析し、組み立て直してみる機会を提供するとともに、新たな教育実践力を育成します。

●日本語教育分野

世界のグローバル化にともなう国内外の日本語学習者の増加や、多様な学習需要に対応できる日本語教員を養成します。日本語や日本語教育について研究を行い、日本語指導が必要な子どもおよび国内外の学習者に、日本語を指導する教育実践力を育成します。

発達支援コース

発達支援コースは、「幼児教育」「特別支援教育」という二つのディシプリンを柱とし、それらが「発達支援」という共通性によってつながっています。ここで「発達支援」とは、多様な発達を示す子どもたちを包摂する教育の仕組み作り、カリキュラムや授業のあり方の検討、さまざまな支援方法の検討、といった内容を含んでいます。それらは学校教育のすべての場面で求められるベーシックな原理ですが、とりわけ幼児教育や特別支援教育の分野では重要です。

●幼児教育分野

子どもや保育・子育てを取り巻く環境の変化をふまえ、これからの保育者には、子どもが直面する諸問題に加え、家庭や地域も含めた課題についても対応が求められます。これらの課題に取り組むために、人間の生涯にわたる発達と教育を視野にいれつつ、乳幼児の心理や発達、幼児教育の目標や内容、保育・教育計画や方法、制度や歴史について専門的に研究し、優れた実践的指導力を育成します。

●特別支援教育分野

特別支援教育に関する総合的かつ専門的な研究能力を育成します。特別支援教育に関する教育課程、学習指導、教材、授業法等の研究を通して、教材・教具の開発及び活用を含む高度な教育実践力を育成します。また、この分野では特別支援学校の専修免許状を取得することができます。

教科教育専攻

School Curriculum Studies Course

教科教育専攻は、近接教科を統合した「言語系教育コース」「社会・生活系教育コース」「理数・情報系教育コース」「芸術・スポーツ系教育コース」の4コースから成っています。教科に関する一定分野の深い学問的な知識・理解を身につけるとともに、それをもとに学習内容の系統性や教科の本質を理解し、新たなものの見方や発見を促すような課題探究型の授業を構想し、教材を開発することのできる教員を養成します。

言語系教育コース

言語系教育コースは、「国語」「英語」「外国語活動（小学校英語）」に関する学習内容を含み、「国語教育」と「英語教育」が「言語」という共通性によってつながっています。それぞれの教科を深く学ぶとともに、それを実際の教室場面に活用するための教育実践につなぎ、実践的指導力のある教員を養成します。

●国語分野

・国語学、国文学、漢文学及び書道の各分野における高度に専門的な研究を基盤に据え、それらを国語教育の立場から総合的に修得します。
・地域的特色を研究と教育に生かし、それらを基とした新しい教材開発を推進します。
・国語科教育として必要な、高度な理論的研究能力と教育実践力の育成を図ります。

●英語分野

・英語学、英米文学の分野における高度に専門的な研究を基にして、英語教育に関する総合的かつ高度な研究能力を育成します。
・英語科教育に関する諸問題を教授法分析、教材研究、授業研究等の観点から通時的、共時的に考究することによって高度な研究・実践能力を養成します。
・英語科教員としての実践力の向上を図り、指導的立場に立って英語教育を推進することのできる人材を養成します。

社会・生活系教育コース

社会・生活系教育コースは、「社会」「家庭」「生活科」に関する学習内容を含み、「社会科教育」と「家政教育」が「生活」という共通性によってつながっています。それぞれの教科を深く学ぶとともに、それを実際の教室場面に活用するための教育実践につなぎ、実践的指導力のある教員を養成します。

●社会科分野

・歴史学、地理学、法学・政治学、経済学、社会学、哲学・倫理学の各分野における高度な教育・研究を基盤に据え、教育科学としての社会科教育に関する総合的かつ高度な研究能力を養成します。
・社会科教育に関する教育課程、学習指導、教材研究、授業研究等を通して、高度な教育実践力を養成します。
・社会科教育諸分野における教材・教具の活用及び開発の能力を修得します。

●家政分野

・食物学、被服学、家庭経営学、保育学、住居学の各分野における高度な教育・研究を基盤に据え、教育科学としての家庭科教育に関する総合的かつ高度な研究能力を養成します。
・家庭科教育に関する教育課程、学習指導、教材研究、授業研究等を通して、高度な教育実践力を養成します。
・家庭科教育諸分野における教材・教具の活用及び開発の能力を修得します。

理数・情報系教育コース

「理数・情報系教育コース」は、「算数・数学」「理科」「技術」に関する学習内容を含み、「数学教育」「理科教育」「技術教育」が「サイエンス」という共通性によってつながっています。それぞれの教科を深く学ぶとともに、それを実際の教室場面に活用するための教育実践につなぎ、実践的指導力のある教員を養成します。

●数学分野

代数学、幾何学、解析学、応用数学の各分野における専門的研究を探るとともに、学校教育及び数学科教育に関する理論的研究能力と教育実践力の向上を図り、数学教育の進展に寄与し得る指導的人材を養成します。１年次には、算数・数学教育に関する諸課題を検討する際に必要となる算数・数学教育学及び数学各論について学習しつつ学問的・研究的態度を養い、２年次には、それぞれが興味をもつテーマにしたがって修士論文を作成します。

●理科分野

物理学・化学・生物学・地学などの自然科学の各専門領域に関わる深い教育・研究をもとに、国際的視点にたって、楽しくレベルの高い理科教育のプログラムをつくり実践できる専門家を養成します。そのために、理科教育に関する高度な研究能力を育成します。また、理科教育に関する、教材研究、授業研究等を通して、総合的な教育実践力を育成します。

●技術分野

地場産業ないしは地域産業を考慮した新しい教材を開発し、自主的に教材を編成できる能力を身につけ、技術教育に関して高度な教育実践力と理論的研究能力の育成を図り、技術教育の進展に寄与し得る指導的人材を養成します。

芸術・スポーツ系教育コース

「芸術・スポーツ系教育コース」は、「音楽」「図画工作・美術」「保健体育」に関する学習内容を含み、「音楽教育」「美術教育」「保健体育」が「表現と実技」という共通性によってつながっています。それぞれの教科を深く学ぶとともに、それを実際の教室場面に活用するための教育実践につなぎ、実践的指導力のある教員を養成します。

●音楽分野

音楽科教育、ピアノ、木管楽器、声楽、作曲、音楽学の分野の専門的な指導を行っています。選択する研究テーマにより、その分野を中心としたカリキュラムを組むことができます。

音楽教育、音楽学を主たる研究分野とした場合には、理論と実践の両面から論文に取り組みます。声楽、器楽では、演奏と論文に取り組んでいきます。理論系科目では、主に少人数のセミナー形式、実技系科目では、個人レッスンの形態で指導が行われています。

●美術分野

作品制作によって、絵画・彫刻・デザイン・工芸の各分野に関わる専門的内容を深め、美術科教員として基盤となる教育実践力の向上を図ります。

また、美術科教育に関する理論的研究能力を高め人間の尊厳の精神を養い、日本の伝統的な美術・工芸等の諸芸術文化に対して、深い洞察力をもって継承する姿勢と現代的な視点を養成します。

●保健体育分野

保健体育科の全容を理解するために、保健体育科教育はもちろんのこと体育学、運動学、学校保健の特論を一つずつ履修し、個々の興味・関心に沿って理論的研究能力と教育実践力を備えた人材育成をめざして学んでいきます。特に大学院担当教員と附属学校教員との連携のなかで、同じ1単元授業を附属教員と大学院生が担当、高いレベルの授業を志向し授業準備・授業反省会を大学教員団とともに行う授業は、保健体育分野の教育実践力養成の中核をなすものとなっています。

学校臨床心理専攻

School Clinical Psychology Course

学校臨床心理専攻は、学校、家庭、職場、地域などさまざまな領域で生じている人間関係や心の問題への支援ができる心理臨床家を養成します。そのために、臨床心理学に関する理論的学習と実践的体験学習、附属の心理臨床相談室及び学外の臨床心理関連施設での実習などを通して、高度な臨床実践力を育成します。

いじめや不登校といった教育臨床的諸問題、虐待や家庭内暴力といった福祉に関わる問題、一般成人の生き方や対人関係にまつわる悩みや適応上の問題（医療に関わる問題も含む）など多様な心の問題に対応できる汎用性のある臨床心理士の育成を目指しています。さまざまな領域において他の専門家と連携しながら活躍できるように、心理アセスメント、心理療法、グループアプローチ、倫理などについて、本専攻では少人数できめ細かな指導を受けることができます。日本臨床心理士資格認定協会の第1種指定大学院に認定されており、修了時に臨床心理士の受験資格を得ることが可能です。

なお、公認心理師の受験資格を得るためのカリキュラムには対応していません。

在学生からのメッセージ

高度教職実践専攻（授業力開発コース）
井上　聖也

高度教職実践専攻では現職の教員を含め多様な立場のメンバーで構成されています。授業内容は様々な視点からの理論的な講義、共同学習やプレゼンテーション、ゼミによる研究や実際の学校に行っての実習など多種多様なものとなっています。授業外でも、自主的に前時の講義内容に対する議論や発表内容の検討など共に高め合っています。日々錬磨し、より高度な専門的力量を形成したい方はぜひ進学してみてください。

学校教育専攻（教育支援コース　教育学分野）
李　伝良

教育学研究科に入学し、もう一年が過ぎました。この一年間、学校教育に関する視野と見聞を広げました。また、ゼミの先輩たちと一緒に地域の小学校に行き、放課後児童クラブを支援しました。そして、裏千家茶道部に入部し、週二回茶道の稽古も行っています。日本文化に深く興味を持っている私は外部の団体が主催する茶会や俳句大会などにも積極的に参加しています。交流の輪を広げながら、充実した留学生活を送っています。

教科教育専攻（社会・生活系教育コース　社会科分野）
黒川　友司郎

私は、法学部出身です。教員としての専門的な知識に不十分さを感じ、大学院に進学しました。大学院の授業は少人数で行うものが多く、積極的・主体的に学ぶことが求められます。また、附属学校で授業を行う機会があり、実践力も身につけることができます。学部とは違い、大学院では様々な分野を専門とする人が在籍しているので、とても刺激になります。良い経験になると思うので、勇気をもって進学してください。

学校臨床心理専攻
田渕　基修

1年次では理論的な学習の他に、カウンセリング・ロールプレイや心理検査を院生同士で行い、両方の基礎を学ぶことができます。その中で自己を見つめ、自分の聴き方や性格の特徴について気づくことも多くあります。2年次からは実際に相談を担当し、個別指導を通して学ぶことができます。少人数であるため、質問や議論が活発に行われ、深く学ぶことのできる充実した院生生活を送っています。

取得できる専修免許状

◎学校教育専攻……小学校、中学校（国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、技術、家庭、英語）、高等学校（国語、地理歴史、公民、数学、理科、音楽、美術、工芸、書道、保健体育、家庭、工業、英語）、幼稚園、特別支援学校（知・肢・病）

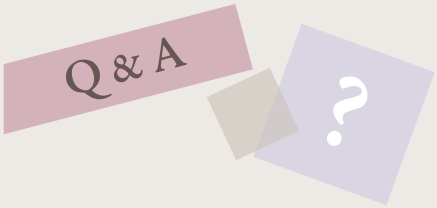
◎教科教育専攻……小学校、中学校（国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、技術、家庭、英語）、高等学校（国語、地理歴史、公民、数学、理科、音楽、美術、工芸、書道、保健体育、家庭、工業、英語）

◎高度教職実践専攻…小学校、中学校（国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、保健、技術、家庭、英語）、高等学校（国語、地理歴史、公民、数学、理科、音楽、美術、工芸、書道、保健体育、保健、看護、家庭、情報、農業、工業、商業、水産、福祉、英語）、幼稚園、養護

※教育職員免許法等の改正に伴う再課程認定申請予定

教職大学院と修士課程の対比

	高度教職実践専攻 （教職大学院）	学校教育専攻／教科教育専攻 （修士課程）
養成する人材像	・学部段階での学習を基盤に、より実践的な指導力を有する新人教員 ・確かな指導理念を有し、新しい発想と立案能力のあるスクールリーダー ・特別支援教育コーディネーターや通級指導を担当する上で必要な高度な実践的指導と能力を有する教員 ・新たな課題にチームで対応し、実践・省察を通じて組織に貢献できる教員	・教育学、心理学、幼児教育、日本語教育などを基盤にして、教育理論に強い教員 ・教科学習の内容と方法に高度な専門的知見を有する教員 ・特別支援学校・学級を担当する上で必要な研究実践力のある教員 ・教育課題や発達課題を分析・探究できる研究能力を培い、それを教育実践に応用できる教員
修了要件単位数	46単位以上	32単位以上
学位	教職修士（専門職）	修士（教育学）
標準修業年限	2年	2年
修学上の特例	短期履修学生制度（1年） 長期履修学生制度（3～4年） 小学校教員免許取得コース（3年）	長期履修学生制度（3～4年） 小学校教員免許取得コース（3年）
教育実習	10単位 教育研究実績に応じて4単位まで免除可能	学校インターンシップ（2単位　選択）
修士論文	なし 実践に基づく事例研究報告を作成	必修
教員	研究者教員　＆　実務家教員	研究者教員
授業の特徴	研究者教員と実務家教員とのコラボレーションにより展開。理論と実践の架橋・往還を重視	講義、演習、論文作成を通して研究能力を培い、それを教育活動に活用できることを重視



◆短期履修学生制度とは

優れた教育研究の実績のある現職教員を対象としています。厳正な審査を経て認められた方は、1年間の履修によって修了できます。

◆長期履修学生制度とは

職業を有している等の事情により、標準修業年限を超えて、一定の期間にわたり計画的に履修する人のための制度です。4年間を上限として履修計画を立て、長期履修学生として在籍することが可能です。この場合の授業料は、2年間に支払うべき授業料総額を3年間または4年間に分割して支払うことになります。

◆小学校教員免許取得コースとは

3年間の長期履修学生制度を活用して、大学院での教育課程を修めながら、小学校教員免許状を取得することができます。この場合、小学校教員免許取得コースを受講するにあたっての受講料は必要ありません。なお、教職大学院にあっては、中学・高校などの教員免許状を有していることが必要です。

入試概要

※詳細については、募集要項をみてください。

【アドミッション・ポリシー】

教育学研究科（修士課程）における入学者の受け入れの方針

◇入学者に求める学力・能力・資質等

大学院入学までに、以下のような学力・能力・資質等を備えている学生を求めています。

①知識・技能・理解力
＊人間の形成と発達支援に関する大学卒業程度の基礎知識・理解力

②思考力・判断力・表現力
＊自らの論理的思考・判断に基づき、人間の形成と発達支援に関する諸課題を説明できる表現力

③研究能力・応用力
＊人間の形成と発達支援に関連する研究を遂行するための基礎的能力・応用力

④探求心・意欲・態度
＊人間の形成と発達支援に関連する諸分野について学び、研究することに対する高い志・意欲・態度と創造的な探求心

⑤倫理観・社会的責任
＊個人の尊厳を重んじ、真理と正義を希求し、公共の精神を尊び、豊かな人間性と創造性を備えた人間の育成を目指す倫理観とその社会的責任を理解できる能力

⑥グローバルマインド
＊国際化の進んだ現代社会のなかで児童生徒が成長していることを理解するための基本的語学能力と、それを人間形成や学校教育の課題として捉えることのできる国際感覚

◇選抜方法の主旨

○一般選抜（A日程、B日程、C日程）

人間の形成と発達支援に関連する研究への志向と勉学意欲を持っている人を対象に、専門科目試験、外国語科目試験、及び、口述試験を行います。筆記試験の「専門科目」は進学志望領域に関連する専門分野から出題し、修学に必要な知識・技能・理解力、思考力・判断力・表現力、研究能力・応用力を評価します。筆記試験の「外国語科目」は英語を出題します。専攻・分野によって「中国語」「ドイツ語」を出題し、選択することができます。また、外国人留学生は、専攻・分野によって、「外国語科目」を「日本語」に代替することができます。「外国語科目」は、修学に必要な知識・技能・理解力、グローバルマインドを評価します。口述試験では提出書類（研究分野調書、成績証明書類等）を参考にしながら、勉学・研究に対する探求心・意欲・態度、自分の考えを論理的に伝える思考力・判断力・表現力、倫理観・社会的責任を評価します。特に研究分野調書（研究概要調書）に基づいて質問し、学士課程での学修と修士課程での学修の関連性、教育課題や臨床課題を解決していこうとする意欲、発言における説得力と的確性を評価します。

なお、3年以上の職歴を有する者で、学力検査科目の代替を希望する者は、研究業績調書（著書、論文、研究報告・発表、作品等）、研究計画書をもって、学力検査に代替することができます。その場合は、事前審査を行い、学力検査に代替しようとする教育研究業績が入学を志願する専攻分野の内容に合致しているか、修学に必要な知識・技能・理解力、思考力・判断力・表現力、研究能力・応用力を有しているかといった観点から、適否を判断します。

教育学研究科（専門職学位課程）における入学者の受け入れの方針

◇入学者に求める学力・能力・資質等

大学院入学までに、以下のような学力・能力・資質等を備えている学生を求めています。

①知識・技能・理解力
＊学校教育と発達支援に関する大学卒業程度の基礎知識・理解力

②思考力・判断力・表現力
＊自らの論理的思考・判断に基づき、学校教育と発達支援に関する諸課題を説明できる表現力

③研究能力・応用力
＊学校教育と発達支援に関連する実践研究を遂行するための基礎的能力・応用力

④探究心・意欲・態度
＊学校教育と発達支援に関連する諸分野について学び、研究することに対する高い志・意欲・態度と創造的な探究心

⑤倫理観・社会的責任
＊個人の尊厳を重んじ、真理と正義を希求し、公共の精神を尊び、豊かな人間性と創造性を備えた人間の育成を目指す倫理観とその社会的責任を理解できる能力

⑥グローバルマインド
＊国際化の進んだ現代社会のなかで児童生徒が成長していることを理解するための国際的視野と、それを学校教育の課題として捉えることのできる国際感覚

◇選抜方法の主旨

○一般選抜（A日程、B日程、C日程）

明確な教職への志向と勉学意欲を持っている人を対象に、小論文試験及び口述試験を行います。筆記試験の「小論文」は、修学に必要な知識・技能・理解力、思考力・判断力・表現力、研究能力・応用力を評価します。

口述試験では提出書類（志望理由書、研究業績調書、職務実績調書等）を参考にしながら質問し、教育課題を解決していこうとする意欲・態度、勉学・研究に対する探究心・意欲・態度、自分の考えを論理的に伝える思考力・判断力・表現力、倫理観・社会的責任、グローバルマインドを評価します。

【募集人員】

学校教育専攻 12人
教科教育専攻 18人
学校臨床心理専攻 7人
高度教職実践専攻（教職大学院）14人

【入試日程】

A日程：平成30年　9月　8日（土）
B日程：平成31年　1月26日（土）
C日程：平成31年　3月　2日（土）

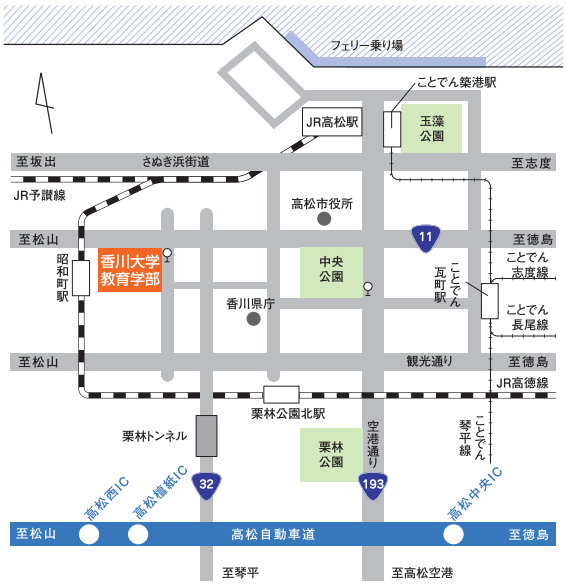
【大学院説明会】

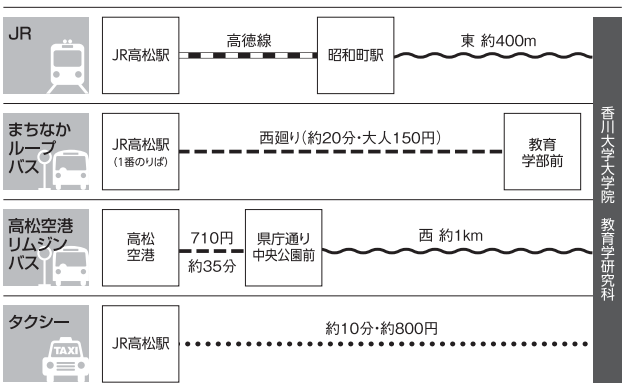
第1回：平成30年　6月　9日（土）
第2回：平成30年 11月10日（土）
第3回：平成31年　2月　2日（土）

【過去問題の請求について】

教育学部の窓口において閲覧ができます。希望者には過去1回分の問題のコピーをお渡しします。問題の郵送を希望する場合は、任意の申込書（氏名、連絡先住所、電話番号、志望する専攻・コース・分野を記入）及び返信用封筒（送付先住所・氏名記入、92円切手貼付の長3封筒）を教育学部学務係まで送付してください。

ACCESS





問い合わせ先

KAGAWA UNIVERSITY

香川大学教育学部学務係
〒760-8522　香川県高松市幸町1-1
TEL（087）832-1404
http://www.ed.kagawa-u.ac.jp